

令和元年第2回上毛町議会定例会会議録 (3日目)

招集の場所 上毛町議会議場

開閉会日時及び宣言

令和元年6月7日 午前10時00分

○応招（不応招）議員及び出席並びに欠席議員

出席議員（12名）

1番 高西正人 2番 友岡みどり 3番 岩花寛之 4番 田中唯登志
5番 廣崎誠治 6番 宮本理一郎 7番 峯 新一 8番 三田敏和
9番 安元慶彦 10番 茂呂孝志 11番 荒牧弘敏 12番 宮崎昌宗

欠席議員（0名）

○地方自治法第121条の規定による説明のため出席した者の職氏名

町長 坪根秀介・ 副町長 川口 彰・ 教育長 道免 隆・ 会計管理者 福田正晴
総務課長 岡崎 浩・ 企画情報課長 堀 綾一・ 開発交流推進課長 永野英憲
税務課長 堀田京介・ 住民課長 垂水勇治・ 長寿福祉課長 佐矢野 靖
子ども未来課長 垂水英治・ 産業振興課長 円入忠義・ 建設課長 尾崎幸光
教務課長 村上英之・ 総務係長 宮吉保男

○職務のため本会議に出席した者の職氏名

議会事務局長 堀 三好
議会事務局書記 岩井英樹

○議事日程

令和元年第2回定例会議事日程（3日目）

令和元年6月7日 午前10時00分 開議

日程第 1 一般質問

○会 議 の 経 過 （3日目）

開会 午前10時00分

○議長（宮崎昌宗君）皆様、おはようございます。定刻になりました。御起立をお願いいたします。傍聴者の皆様もよろしくお願いいたします。

一礼して御着席お願いします。礼。

会議に先立ち、議員及び執行部の皆さんに議長よりお願いいたします。発言は必ず議長の許可を得てから発言してください。また、不穏当発言、不規則発言に御注意いただき、有意義な会議でありますよう、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

それでは始めます。

ただいまの出席議員は議員全員です。

これから、本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付しております運営資料の議事日程表のとおりです。

○議長（宮崎昌宗君）日程第1、一般質問2日目を行います。

本日の一般質問の質問者は、お手元の議事日程表に掲載のとおり、2名です。

質問者の質問時間は答弁を含み60分以内ですので、通告された時間内に終わるよう、要点を簡潔明瞭に行い、また、答弁につきましても、効率的な議事運営への御協力をお願いいたします。時間の経過は議場内に表示されていますので、消費時間を確認し、厳守してください。

それでは、7番、廣崎議員、御登壇ください。

○5番（廣崎誠治君）皆様、おはようございます。傍聴の方も御苦労さまでございます。

きのうに引き続きで執行部の方、議員の方もお疲れのことと思いますが、よろしくお願いいたします。

私は、今回は2点について一般質問をしたいと思います。

まず、スポーツ振興について。それから、河川管理についてお伺いしたいと思います。あと、詳細については自席にて行います。よろしくお願います。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）まず、スポーツ振興についてです。

スポーツ基本法前文では、「スポーツは心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵養等のために、個人又は集団で行わ

れる運動競技、その他の身体活動であり、今日、国民が生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠なものとなっている」と書いてあります。

私は、スポーツは時代を担う少年少女、若者等がスポーツを行うことで、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進と、また、成人、高齢者等が行うことで健康づくりにもなり、医療費の削減にもつながると思います。

そこで、対策の強化を行うべきと思い、以下の質問を行います。

まず1番、現在どのような取り組みを行っているか、お伺いします。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）それでは私のほうから、議員御質問のスポーツ振興に向けての現在の対策はということについて御答弁させていただきます。

本町のスポーツ振興につきましては、町体育協会を中心に、ライフステージに応じた各種スポーツ大会等、また、体育協会登録団体の各クラブでの活動や教育委員会主催の生涯学習講座での健康教室などを通してスポーツの振興を図っております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）それでは、スポーツ関係の施設管理について、どのくらいあって、どのようになっているか、お伺いします。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）施設管理につきましては、現在、本町にはスポーツ、運動施設として、体育館が農業者トレーニングセンターと健康増進施設の2館。グラウンドは総合グラウンドと多目的運動広場の2施設。また、健康づくりの観点から言えば、げんきの杜のトレーニングルームがございます。

健康増進施設と多目的運動広場につきましては、現在、シルバー人材センターのほうに指定管理を出しております。また、げんきの杜のトレーニングルームにつきましては、社会福祉協議会のほうに指定管理を出して、管理運営等を行っていただいております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）2月の全員協議会で、体育館の建設について資料をもらっていますが、再度お尋ねいたします。

事業計画については、昨日の茂呂議員の質問で答えていると思います。財政計画については、国の交付金、補助金、合併特例債を活用すると答弁がっておりますが、公共施設整備基金は使わないのかどうか。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）昨日、茂呂議員の御質問に対しても答弁しましたが、国または国の交付金または起債などを活用するということですので、議員が言われました基金につきましても、今後、財政係等と協議を重ねていきたいと思っております。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）それでは、体育館の関係の2番の質問ですが、建設場所については、新吉富村農業者トレーニングセンター周辺という形できのう答えてますのでよろしいです。

設計の関係についてお伺いします。プロポーザルについて委託するという形になってますが、プロポーザルの応募作を選考する委員の決定はどうなってるか、お伺いします。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）選考委員の決定につきましては、現在プロポーザルを実施中ですので、詳細につきましては、この場では公表はできませんので、その点は御理解いただきたいと思います。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）プロポーザルの応募作を選考する人は何名で行うのかも答えられないのかどうか、お伺いします。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）人数につきましては、学識経験者を入れて、今、9名で構成しております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）その9名というのはどういう資格のある人というか、大学関係、教授とか、そういう人たちを選んでるんですかね。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）学識経験者として、大学の先生3名が入っております。なお、

学識経験者につきましては、実績のある県内の自治体から情報収集し、選考しております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）それでは、6番の体育館の面積なんですけど、3,500平米から4,000平米と答弁していました。今のトレーニングセンターよりかなり広く、大きなものになると推測されますが、現在の場所に建設することになる図面では、今のグラウンドがかなり狭くなると思うんですが、利用はどうなるのか。現在は野球、ソフトボールが2面、サッカーが1面、南側は少年野球が利用していると思いますが、お答えをお願いします。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）現在の総合グラウンドにつきましては少し狭くなりますが、野球場1面は確保したいと考えております。なお、昨日も申し上げましたけれども、屋外施設につきましては、多目的運動広場のほうに集約という方針で今後進めていきたいと考えております。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）南側のほうは少年野球が利用してますので、それは利用できるんじゃないかなと思います。

それでは7番です。駐車場の件についてはげんきの杜の周辺を利活用するという答弁がございましたが、私はげんきの杜の東側駐車場を南側のほうの新吉富保育園の東側の下の段まで広げて、新たな駐車場をつくって、グラウンドに、黒川に橋をかけたかどうかと思うんですが、その辺はどうでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）駐車場等につきましても、今後、業者のほうから提案があると思います。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）あとは、資料の中の施設の構成と想定規模の中に、キッズスペースというのが載っていますが、中津市のサンリブ3階にある、トランポリン等があるこどもいきいきプレイルームと似たような施設をつくるのかどうか、お伺いいたします。

す。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）キッズスペース等のそういったもろもろにつきましても、今後、業者からの提案という形になろうかと思えます。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）私は、この体育館建設には賛成であります。現在のトレセンは老朽化し、耐震基準を満たしていないため、建てかえが急務だと思いますし、建設予定場所にて、早急に住民が健康づくり等に利用しやすい多目的利用の体育館建設をしていただきたいと思えます。

それでは、多目的運動広場周辺の開発についてお伺いします。元県営テニスコートの改修計画はあるのか。人工芝にしたらどうかと思うんですが、どうでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）多目的運動広場周辺につきましては、先ほど言いましたように、屋外体育施設を集約するという計画でございますので、その整備につきましても、今、議員が言われました御意見を参考にさせてもらいながら、今後検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）それと、県より譲り受けた北側のグラウンドの件なんですが、今後の整備計画はどうなっているのか。人工芝グラウンドにして、フットサル、テニス等にも利用できる多目的グラウンドにしたらどうかと思うんですが、その辺はどうでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）教務課長。

○教務課長（村上英之君）その点につきましても、今後検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）この次の質問は通告には載ってないんですが、テニスコートと多目的グラウンドの間に町道が通っているわけなんですが、奥に種村産業さんの土砂を運ぶ大型トラックが頻繁に通って危険でもありますので、テニスコート、グラウンド

整備の際のつけかえ等は考えられるのかどうか、お答えください。

○議長（宮崎昌宗君） 教務課長。

○教務課長（村上英之君） その点につきましても、検討する際、参考にさせていただきたいと考えます。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君） 廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君） 5番目です。ふれあいの家京築解体後の跡地利用についての件ですが、スポーツクラブ合宿用の宿泊施設の建設は考えていないかどうか、お伺いします。

○議長（宮崎昌宗君） 教務課長。

○教務課長（村上英之君） ふれあいの家解体後の跡地の利活用につきましては、大池公園の開発とも関連してきますので、今後、町としてどういった利活用ができるのか検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君） 廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君） スポーツ振興について、最後に町長に伺います。このような取り組みを行う場合、財源をつけるのは財政を持っている町長部局だと思います。スポーツ施設を充実し、上毛スマートインター及び10号線を利用し、外部から人を集める施策を行うことは上毛町の名前を売ることができると思うが、町長はどう考えますでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君） 町長。

○町長（坪根秀介君） もちろんスポーツ施設につきましては、議員御指摘のテニスコートに限らず、サッカー、野球、いろいろなスポーツがありますので、十分総合的に勘案しながら検討してまいりたいと思っております。

○議長（宮崎昌宗君） 廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君） それでは、次に行きます。河川管理についてお伺いいたします。

昨年起こった西日本豪雨等で想定外の雨が降りまして、予期しない河川の氾濫や堤防の決壊による人命や家屋、農作物の冠水による被害が広範囲にわたりました。幸いにして本町は降雨量が少なかったため、被害が少なかったものの、集中豪雨があったときには河川の氾濫や堤防の決壊が想定されるところもあるように思います。

町は町内の河川をどのように認識しているのか、お伺いいたします。

まず1番目。町が管理している河川はどのくらいあるか、お伺いします。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）町が管理をしている河川でございますが、河川法を準用する河川でございます。準用河川に指定をしている河川につきましては9河川。総延長は14.08キロメートルとなっております。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）現在の管理方法はどうかになっておりますか。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）管理方法でございますが、先ほど言いましたように、河川法を準用しておりますので、法にのっとり管理を行っておるところでございます。河川法では、河川が適正に利用され、流水の正常な機能が維持されるように管理するとされております。目的達成のため、町では占用や工事の施工承認等の規制を行っておるところでございます。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）巡回等の見回りはどのくらいの回数で行っているか。2カ月に1回とか半年に1回とか、そのような感じで管理してるんでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）見回りにつきましては、職員等が現場に出た際に、河川についても一緒に見て回ってるというような状況であります。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）町営の9カ所について、堆積している土砂等のしゅんせつ等はどうなっているかお伺いします。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）河川のしゅんせつでございますが、要望や現地確認を行いついて、年間予算の範囲内で河川のしゅんせつを行っておるところでございます。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）町営の河川で堤防に木が生えて、堤の石積みなどがずれている箇所が結構あると思うんですが、その辺の管理はどうかになっているでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）堤防管理につきましては、現在、隣接所有者や自治会等で草刈り作業を行ってもらっているような状況でございます。特に繁茂した場合には町のほうで樹木または草刈り等を行っておるところでございます。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）県営河川については、上記の要望があった場合どのようにしているか。特に中小の河川が流入する私の地元のほうですけど、黒川は上流からの堆積物で河床が上がり、灌木が生えて水をせきとめ、また、川筋が堤防のほうに変わるなどの危険があると思われるところがあります。どのような要望を県に対して行っているのかお聞きします。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）県営河川で要望があった場合でございますが、現地で内容を確認いたしまして、京築県土整備事務所の河川砂防課のほうへ随時要望を行っておるところでございます。本年度、昨年度も、3回ほど河川について流木伐採、それからしゅんせつの要望を出してるところでございます。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）この件については、現在5月、6月は少雨のため大丈夫なんですが、気象庁のデータを調べたところ、年間降雨量というのは行橋管内、1990年から2008年までは1年間の雨量というのは1,722ミリ。2009年から2018年は1,872ミリと、年間100ミリ程度ふえております。降雨量がふえているにもかかわらず現在降っていないということは、降るときは一気に降るんじゃないか、想定外の雨が降るのではないか。そうすると大変危険ですので、ぜひとも要望を出していただきたいと思います。その辺どうでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）要望については、再度、また強く土木事務所に要望を出していきたいと思っております。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）多面的機能交付金事業で、遺跡等の取水口、用排水路、ため池等点検をするわけですが、異常気象時の見回りで、点検項目ではないんですが、河川の堤防の破損箇所等、目についた補修箇所が見つかった場合の、要望があった場合の対応についてはどうでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）産業振興課長。

○産業振興課長（円入忠義君）多面的機能支払交付金の事業では、農用地、水路、農道等の保全管理が対象となっております。河川は対象外でございますが、河川内の頭首工は農業施設でございますので、対象となっております。それから、河川の改修要望等があった場合は、県に要望するという形で、管理者に要望を随時伝えて対応していただくということでございます。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）建設課と協議して、悪いところがあったら災害の対象になるのであれば災害で対応していただきたいと思ひますし、よろしくお願ひしたいと思ひます。町民にとって、河川は町営であろうと県営であろうと同じ河川です。生活、農業経営にとって重要な問題であります。災害が起こりそうな箇所があれば早急に対処していただきたいと思ひます。

最後に町長の考えを聞かせていただきたいと思ひます。

○議長（宮崎昌宗君）町長。

○町長（坪根秀介君）御指摘のとおりで、ことしもそうですけど、エルニーニョ現象ということで、渇水や洪水が非常に懸念されるわけでございますし、いつ、どこで、何が起きてもおかしくない、そんな状況の中で、しっかりと地域を歩いて、危ない箇所につきましても優先順位をしっかりと決めて、県に対して要望してまいりたいと思ひます。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員。

○5番（廣崎誠治君）それでは、しっかりと対応していただきたいと思ひます。

これで私の質問は終わります。

○議長（宮崎昌宗君）廣崎議員の質問が終わりました。

8番、三田議員、御登壇ください。

三田議員。

○8番（三田敏和君）皆さん、おはようございます。そして傍聴席の皆様、よろしくお願ひをいたします。本定例会一般質問、最後は8番バッター三田敏和が行います。最後までよろしくお願ひをいたします。

上毛町は2040年に人口1万人を目指すとして、新婚、子育て世代等の応援事業、赤ちゃん祝い金給付事業など、移住・定住及び出生率の向上を目指して新規事業を展

開しております。昨日も各議員から人口問題について質問が出ておりました。その答弁を聞きながら、子育て世代も含め、総合的に支援し、子育てがしやすい環境の整備に努めていることを改めて感じました。

とはいえ、ふるさと納税においては制度の見直しが行われ、不安定な内容が多く含まれております。少子高齢化がますます進む中、限られた予算を有効に使い、後世にツケを残さないためにも、議会の存在価値を發揮しなければならないと考えております。

そういう背景を考慮して、今回は第2次総合計画、皆さんが輝くまち、特に子どもが輝くまちについて。これは3月の議会で通告しておりましたが、質問ができませんでしたので、改めて通告いたしました。

2番目は、特に最近、高齢者のドライバーがアクセルとブレーキを踏み違えるような事案を含めて歩行者の列に突っ込む、あるいは逆走するなどの事件・事故が起きております。特に、児童・生徒として表記しましたが、校舎、公園等で過ごす市民の安全をどのように構築していくのか、お伺いをいたします。

3番目に、間もなく梅雨に入りますが、近年、異常気象の関係で、特に北部九州、西日本において集中豪雨による多くの犠牲者を出しました。上毛町でも昨年7月7日の豪雨では多くの方が避難場所で不安な一夜を過ごされました。少しでも不安を取り除くことについて、政策をお聞きいたします。

最後に、昨日も宮本議員から質問がありましたふるさと納税について、答弁の内容を聞きながら、通告をしておりますので、二、三お聞きをしたいことがあります。

以上4点の項目について、一般質問をさせていただきます。詳細は自席で行いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） それでは、第2次総合計画「子どもが輝くまちへ」についてを質問いたします。

まず昨年度の答弁で、平成30年度の母子手帳の交付というか、新生児の出生が減少しているとの答弁がありました。年度途中でもありましたので数値が確定していませんでしたが、平成30年度の新生児出生率をお示してください。

○議長（宮崎昌宗君） 子ども未来課長。

○子ども未来課長（垂水英治君） それでは、議員御質問の平成30年度の出生数の実績

ということで、住基の観点から御答弁申し上げます。

平成30年度中の出生数は32名でございます。それから、3月末時点のゼロ歳児の人数でございますが、34名でございます。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）非常に少なくなっているような気がいたしてなりません。小学校に上がる際においても、途中で転入、転出で増減があると思いますが、直近5年の中で、今の新生児を含めて、校区ごとに児童・生徒数がわかりましたらお聞かせください。

○議長（宮崎昌宗君）子ども未来課長。

○子ども未来課長（垂水英治君）今、御質問の点ですが、一応、教育委員会のほうで住基台帳によりまして入学予定数、子出生数から割り出したものがございますが、これはあくまで数値的に、その間、転入転出等がございまして、読めない部分がございます。そうした意味を踏まえて、校区ごとに、まず……。

○8番（三田敏和君）議長。

○議長（宮崎昌宗君）はい。

○8番（三田敏和君）教育委員会からでもいいですけど。どちらからでもいいです。校区ごとにお示してください。

○議長（宮崎昌宗君）子ども未来課長。

○子ども未来課長（垂水英治君）まず友枝小学校区ですが、平成30……、過去ですか。

○8番（三田敏和君）過去です。

○議長（宮崎昌宗君）子ども未来課長。

○子ども未来課長（垂水英治君）過去について校区ごとの数値は御用意しておりません。申しわけありません。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）教育委員会をつかんでいる数字があるんじゃないですか。新生児から今後5年、そういう意味ですけど、子ども未来課長、そういう意味にとられなかったですかね。

○子ども未来課長（垂水英治君）今後5年を。

○8番（三田敏和君）今後5年ちゅうか、今、1歳児、2歳児、3歳児という意味でい

けばどうでしょうかという意味です。

○議長（宮崎昌宗君）教育長。

○教育長（道免 隆君）それでは、私のほうから御答弁させていただきます。

校区ごとということですので、まず友枝小学校から御報告申し上げます。来年度、令和2年度の入学予定が12名。

○8番（三田敏和君）ちょっと濟いません。いいですか。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）令和2年度というと、生まれが平成何年になりますかね。

○教育長（道免 隆君）平成25年。

○8番（三田敏和君）はい。わかりました。

○議長（宮崎昌宗君）教育長。

○教育長（道免 隆君）令和2年度が15名。そして、次の年が13、9、5、5でございます。次に、唐原小学校。令和2年度から順番に言います。11、13、10、14、8、10となります。次に、南吉富小学校ですけれども、同じく令和2年度からです。26、43、27、23、19、9。そして、西吉富小学校です。18、13、9、12、11、8となっております。なお、友枝小学校区におきましては施設がございますが、そこの数についてはカウントされておられません。

以上でございます。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）数字を見ましても、非常に減ってくるのが目に見えてはっきりしているような状況で、これが1万人を目指すとなれば、ここの人口もそれなりにふえないと1万人にはなっていないと思います。こういう状況で、今の、あと6年後ですね、学校の課題をどのように考えておられますか。

○議長（宮崎昌宗君）教育長。

○教育長（道免 隆君）いわゆる子供が減るということでの課題ということで、昨年12月議会で議員の御質問に対しまして、唐原小学校の例を挙げて複式学級になる可能性が非常に高いことを心配してるという御答弁をさせていただきました。

唐原小学校の現状を申し上げますと、昨年度途中で3年生2名の転入がありまして、本年度スタートに当たっての複式学級は解消されたということで、ひとまず安堵をしてるところでございますが、本年度、全校の児童数が69名ということで、今後を大

変心配しているところでございます。

あわせて、今、議員がおっしゃられてる今後のことを考えますと、複式学級という大きな課題があろうかと思えます。複式学級にかかわる学校における問題点といいますが、それにつきましては大きく二つあろうかと思えます。

一つが、きめ細かな指導ができにくくなるということ。御承知のとおり、複式学級というのは二学年の児童、生徒を一人の担任が指導すると。同じ時間で二つの学年の指導をやっていくということで、子供の学力形成面から、あるいは教員の負担面からしてもマイナス面があろうかと思えます。

それから二つ目の課題としては、児童に資質能力を育む上で課題があるということです。複式学級に限らず、少人数の学級においては、学力面、人間形成面、そして体力面等で課題がございます。学力面では、多様な考えや価値観を持った児童との出会いに恵まれにくいため、知的刺激が少なくなる。また、人間形成面からは、友人関係の固定化や序列化を招くおそれ、あるいは集団の中で培われる力、そういったものが育ちにくいという面。最後に体力面ですが、いわゆる集団スポーツ等ができにくくなるということで、そういった面で体力向上の面からも課題が出るかと思っています。

以上でございます。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君）私の子供が育つとき、複式学級ということで育ちました。当時はきめ細やかな教育が行き届くということが実際に言われてきて、私もそういう実感をおったんですが、結果的に過ごしてしまえば、そういうものはなかなかつきにくいというか、序列が最初から決まってるというようなことも考えられて、いろいろな面で、今、教育長が言われたようなマイナス面がかなり大きいのではないかなと感じます。

そういう中で、教育長が考えられるというか、町全体としてそうなんだろうが、適正な人数、このくらいは最低必要よと人数を割り出すとすれば、どのくらい必要なんだろうか。

○議長（宮崎昌宗君） 教育長。

○教育長（道免 隆君）適正人数、国が示す適正規模の学校ということになりますと、二クラス以上は最低確保という形になろうかと思えます。小学校、中学校で若干違いますけど。そういったことになりますと、40人定数ですから、倍の80人以上の児

童数が一学年でいるということが望ましいということが一般的な答弁でございますが、本町の実態から考えますと、やはり20名以上は、一つの学年でともに学ぶということで、先ほどマイナス面を申し上げましたけども、そういった面でクリアする一つの基準としては20名以上は欲しいなというのが私の思いでございます。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） 20名以上。私も10から20名は必ず必要だなと思っておりますが、20名以上というお答えを聞きまして、そういうことが今の児童・生徒を育てるうえで必要だということであれば、今の人口を考えれば非常にもっともっと底上げをしないといけないと思うわけですけど、その点、町長、今、1万人を目指すちゅう中で、きのうから施策をいろいろお聞かせいただきましたが、早く早く手を打たなければ、ずっと減ってきて、それが戻るまでもかなりの時間かかるわけで、その辺をどのようにお考えでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君） 町長。

○町長（坪根秀介君） 人口ビジョンに関しましては、昨日も数名の御質問にお答えしたとおりでございますけれども、やはり、どの世代をふやしていくかということが非常に重要になると思っておりますし、子育て世代、その辺をふやしていくということでこの問題はクリアできるのかなと思っております。それに特化してさまざまな、例えば待機児童であるとか、ふえればふえたで問題がありますし、また、教育現場にそれだけ人数がふえて、しっかりと指導できる先生がいるのかというようなことも含めて、さまざまな課題が山積しておりますので、その辺もしっかり教育現場と打ち合わせしながら考えてまいりたいと思っております。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） 人口ビジョン1万人ということもありましたが、実際に子供の数、数学的に子供を心豊かに育てるためには20名以上要るということは、80名、小学校でいえば、町全体でいえば80名以上要るということで、100名ぐらい要るということになります。今、町長がどの世代をふやすかというふうに言われまして、人口をふやすためには、まずは子育て世代をふやすこと。そして、今一人の家庭を二人にする、二人の子供を3人にするという努力も必要だろうと思うわけで、そうなると、年齢の3区分でいけば、1万人を望んだときに、どの世代にどのくらいの人数を必要

と考えておったのか、お聞かせをください。

○議長（宮崎昌宗君）企画情報課長。

○企画情報課長（堀 綾一君）人口ビジョンによります人口構成という御質問ですが、先ほど町長が答弁させていただいたとおり、子育て世代を中心ということで、2040年1万人ということで考えております。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）その1万人になるために、もちろん子育て世代をふやさないかんけども、じゃあ、年齢層の高い世代がどのくらい、子育て世代がどのくらい、子供たちがどのくらいおると1万人になるという構想があるのではないのでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）町長。

○町長（坪根秀介君）具体的にどの世代を何人というのは非常に組み立てにくいと思っていますし、基本的に私が指示を出しているのは子育て世代をふやしていこうということをやっていますので、政策も幅広く、全ての世代に均等にやるという政策というのはなかなか打ちにくいと思うんですね。エリアにしても、上毛町は広うございまして、全域に均衡ある発展というか、それも現実には難しいと思うんですね。先ほど、防災の観点からも言っていました、山間部に人を3,000人ふやしていこうということにはならないと思いますし、いろいろなことを考えた上で総合的に考えて、やはり今、教育の話がされていますので、四つの学校区に均等にいくような、そういう政策ができれば、これは理想であると思っています。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）私が今、教育に特化しておったんですが、そこを特化すると、町全体として1万人にふやすためには、子供が3,000人おるちゅうわけにはいかんですから、そういうふうになると、60歳代以上がこんくらいおって、子育て世代がこんくらいおって、子供がこんくらいおるというパターンを描かないと1万人にはならないと思うんですね。その点についてお聞かせいただきたい。

○議長（宮崎昌宗君）町長。

○町長（坪根秀介君）ですから2040年の目標でございまして、ことし、例えば子育て世代が、20年後にはもう世代は変わっているわけですから、基本的には毎年そういった子育て世代をふやしていこうという政策を考えているところです。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）確かに1万人になったときにどんな姿になっているかちゅうのはなかなかわかりづらいですが、今町長言われた、子育て世代をまずふやす。まず外に出ていかない。転入をふやすということが大事だというふうに今の答弁を聞きながらですね。それと、1人が2人、2人を3人、3人を4人ということもまたしかり、大事なことだと思うんですね。そういう点から、改めて、将来に向かってどういう施策を打ちたいのか、もう一度お聞かせください。

○議長（宮崎昌宗君）町長。

○町長（坪根秀介君）きのうも申し上げたとおりでございますし、やはりいろいろな方々から上毛町に住みたいというお声をかけていただいているわけでございますが、土地がないとか、その学区に土地がないとか、お断りをしているケースも多いんですね。ですから、そういったところを今からつくっていきこうと。このエリアにはこういった分譲地がふさわしいのかとか含めて、確かに空き家は300件近くありますが、そこを紹介してもなかなか転入者がうんと言わない部分もありますし、また所有者もなかなか判定が難しいということもありまして、そういったことも含めて、やはり売り手に買い手でございますので、そういったことをすっきりした形で町が政策を進めるとすれば、それぞれの地区に分譲地というものをバランスよくできればいいなと思っておりますし、四つの学校が未来永劫繁栄していくような、そういった人口分布を考えて今進めているところでございます。

このまま毎年毎年動いてくると思っておりますので、20年に3,000人ふやすということであれば1年間に150人ですよね。だから、毎年150人ふやすということ、単純に割ればそうなるんですけども、途中から急激に、上毛町がやはり子育てにいいということに徐々になってくれば、10年、11年、12年というところからぐっとふえてくるのかなと思っておりますので、その辺は御期待いただければと思っております。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）期待を申し上げ、刺激もしたいなというふうに、激励もしたいなというふうに思ってます。そういう中で、先ほど校区ごとに定住地というようなことを言われました。昨日も、十数件の候補があつてと答弁されておりましたが、そこを早急にお示しをいただき、バランスよくが一番いいわけですけど、そういうこともできにくい面もあるかもしれませんが、できる限りそれぞれの校区に四つの学校をきちっと残すというのであれば、そういう施策をとらないと、今言うように10人が続く

ようであれば非常に難しいし、今の人口ビジョンで示せば、ずっと上がっていくためには急激に尻上がりにならないと1万にはならないと思うので、今打つ手が非常に大事だと思いますので、その点は十分お願いをしたいと思います。

それから、学校への課題については先ほど言われたとおり、わかりました。今、町長が示されたように、特に子育て世代をふやして人口をふやしていくというような答弁されました。しっかり各課連携をしてやっていただきたいなと思います。

今、済いません、1万人に対するギャップとしたら、何人程度ギャップがあるんでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）企画情報課長。

○企画情報課長（堀 綾一君）人口ビジョンにおける人口推計と現在の人口、それから1万人に向けての推計がございます。それからいきますと、3月末でギャップとしては600人程度、1万人に向けては減少していると、ふやさなければならぬというところでございます。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）昨日、何も手をつけなければどんどん減少していく中で、現在400人程度食いとめたというような答弁があったと思うんですが、その辺の実感はどのように思っていますか。

○議長（宮崎昌宗君）企画情報課長。

○企画情報課長（堀 綾一君）人口ビジョンの20ページにお示ししております人口推移のグラフでございます。2010年、7,847人の人口が2040年に5,217人となると、2,630人が減少すると推計されておりました。同じグラフから2019年の人口を読み取りますと、7,200人となっております。平成31年3月末の人口が7,615人でございますので、昨日答弁させていただいたのは、約400人程度減少が抑えられたのではないかと答弁させていただきました。

この件につきましては、コモンパーク上毛彩葉に200人の方々が定住されたということもございます。それを受けて、現在、15地区の候補地を挙げておるということで、それはその中から絞るということではなく、15地区を年々やっていく必要があるという計画でございまして、もちろんそれには先ほど三田議員が言われた校区ごとのことも視野に入れながら、まずどこからやらなければならないのか、何をしなければならないのかということをお早急に検討を進めていきたいと思っております。早い

段階で議員の方々にお示しできればと思っております。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） 前向きな答弁ありがとうございます。

400人食いとめたという中の一つとして、東校跡地があるということでしたら、答弁いただきましたが、ということは、定住の住宅ちゅうのは非常に大きな力を持つてということが数字で示されたというふうになってくるんじゃないかなと思うんですね。そういうことであれば、あの大きな77世帯入る場所ちゅうのは、今後なかなか難しいかもしれませんが、さっき課長言われたように、小さいのをたくさんつくる、これも大事だと思いますので、15をしっかりと校区ごとに分けてふやしていただきたいと思います。

そういう中で、第2次総合計画の24ページに、平成38年に70人という子供の数がいますが、これは1万人ビジョンに対する70という数字だったのでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君） 企画情報課長。

○企画情報課長（堀 綾一君） 総合計画の中の「子どもが輝くまちへ」ということで、目標値、出生者数を70名ということで掲げております。これはビジョンに基づいて総合計画を策定しておりますので、まず1万人に向けての構想の中から70名ということを出しているということでございます。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） 今、120名ぐらい、100名以上の方がお亡くなりになっております。そういう中で70名ということであれば、50名ないし50名前後の人口が減ることになるわけで、そういう意味ではこの数字をもっと上げないといけないちゅうことは、もっともっと努力せないかなちゅうのは改めてこの数字を見ても感じるんですね。だから、町長の使命感というか、町長に対する要望、各課の要望もますます大きくなると思うので、この件について、最後、町長、所感をお願いします。

○議長（宮崎昌宗君） 町長。

○町長（坪根秀介君） ふやすという目標をしっかりと持って今やっているところでございますが、これは一人で3,000人をふやすことは不可能です。例えばこの議場に30人いたら、一人にノルマを与えたとしたら100名。20年間で100名ということであれば、年間に5人でいいわけですよね。例えば三田議員に5人ふやしてくださいということで20人、皆さんが集めていただければ、一家族を年間に上毛町に来てい

ただくということをみんなが力を合わせてやれば達成できるわけでございますし、そういったことも含めて、勢いをつければ上毛町って素晴らしいんだということになると思うんです。誰か一人が上毛町のネガティブな話をすれば、それはマイナスになります。皆さんが協力して上毛町はいい町だということを、私だけ言ってもしようがありませんし、一つになってその方向を目指せば3,000人というのは必ず達成できると思いますし、このために必要なものをこれから整備していくわけでございますから、スーパーがない町と言われぬようにスーパーを誘致しなければならない。いろいろなものを整備して、雇用のないところに定住はないですから、雇用もふやして、教育も高めて、必ず成し遂げてまいりたいと思いますので、ぜひとも御協力お願いしたいと思っております。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） 力強い答弁をお聞きしまして、次の課題に入りたいと思います。

歩道の安全確保。これも住みやすい、いい町をつくるという一つの定住促進につながると思うわけですが、児童を巻き込む交通事故が後を絶たない状況にあります。子供の命を守る手だてとして、まずはどのように考えておられますか。お聞かせください。

○議長（宮崎昌宗君） 教育長。

○教育長（道免 隆君） それでは私のほうから御答弁させていただきます。

まず、児童・生徒のとうとい命を奪う交通事故、いわゆる学校の登下校を含めた管理下においても、そして、家庭に帰った日常生活においてもあってはいけないことだと認識をしております。手だてについては、学校教育の中で行われていたこと、教育委員会、行政として行っていた、さまざまあろうかと思いますが、あわせて、学校、家庭、地域、社会全体でその手だてを講ずるべきだと基本的には思っております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） 特に子供の通学路として特化するならば、町内区域に歩道がない公道がございますね。そういう中で、各地域で見守り隊としてたくさんの方が、保護者なり年配の方が一緒に携わってこられますが、特に通学路等々で学校からこういうところを改善してほしいという要望が出ている案件はございますか。

○議長（宮崎昌宗君） 教育長。

○教育長（道免 隆君）通学路については、毎年年度当初に全ての学校に通学路を地図におとして提出するように求めています。その際、校長等から危険箇所の聞き取り等は行っております。

あわせて、実は上毛町では教育委員会、警察、PTA、育成会、そして、道路の管理者であります県土整備事務所、そして、町の建設課等が入った上毛町通学路安全推進協議会というものを立ち上げておまして、その会に各学校の通学路の安全にかかわる情報をとということで、昨年度の3月に町内の全ての保護者に対して通学路の危険箇所等についてのアンケートも実施しておまして、その中でも改善要望は上がってきております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）その中で特に優劣つけて特記するなら、どこが危ないと言われてますか。

○議長（宮崎昌宗君）教育長。

○教育長（道免 隆君）まず保護者の中だけで53件上がりましたが、今言った協議会の中で重要度、緊急度というのでも精査をいたします。その中で昨年度、改善の必要あり、いわゆる道路の関しては改善の必要ありというのが11件ございました。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）できたらその箇所について開示をしていただきたいと思っておりますので、また議長を通じて開示要求いたしますので、よろしく願いをいたします。

私は前々からPTA活動も行ってた関係もあるかもしれませんが、先般、南吉富校区の方から、ガードレールがなくてお願いしとるんやけどというようなお話を聞きました。確かに危ない箇所があるなというふうに思っておるんですが、その辺も含めて上がっていると理解したいなと思っておりますけど、それでいいと思っておりますが、そのルートは、学校を通じて行政なり、それが県道であれば県のほうにつながっていったらというふうに理解をしておりますが、建設課長、その辺について、学校から上がった要望とかは今受理して、それを県に要望してるような事案がありますか。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）昨年、安雲西自治会長から町のほうに要望がございまして、

県道野地塔田線の安雲地区につきまして、路肩が狭いということで、その部分の写真を撮って、県のほうに要望をしておるところでございます。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）信号機の手前と理解してよろしいですか。

○議長（宮崎昌宗君）建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）宇野の交差点から行きますと、安雲のほうに入りまして、西吉富小学校の手前、少し歩道があるんですが、その手前のほうは歩道がなく、路肩が狭いというところがございます。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）学校を離れると、自治会等々からそういう要望が上がっている事案がございますか。

○議長（宮崎昌宗君）総務課長。

○総務課長（岡崎 浩君）自治会長からの御要望につきましては、おおむね総務課のほうに上がってまいります。上がった分につきまして、建設課が行うのか、総務のほうの交通安全対策施設で行うのか検討いたしまして、自治会長様の要望につきましては2カ月以内にある程度完了するような形、設置の必要があると認められれば、そういった形で対応しております。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）じゃあ、そういうことであれば、ちゃんと改善が進んでるという理解でよろしいですね。

そういう中で、先ほどから県河川とかいう話にもありましたが、今、歩道の拡張とかガードレールちゅうことで、県道にまつわることが結構あります。町の中では改善の必要があるならばおおむね2カ月ぐらいでできるというふうなことです、県道に対する要望はどのような状況でしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）教育長。

○教育長（道免 隆君）先ほど11件という数を申し上げましたけれども、その中で県道にかかわる部分で、既に完了してるところと、現在、令和3年度に向け完成予定のものと、それぞれ案件によって進捗状況がございます。

具体的なものを言えば、例えば「とまれ」の区画線、規制標識の追加だとか、あるいは歩道の新規設置等、そういったものも含まれております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） そういう中で、学校安全計画というのが義務づけられていると思いますが、それぞれ各学校にあるのかどうか。そして、通学路に対してきちんと明記されているかどうか、端的にお答えください。

○議長（宮崎昌宗君） 教育長。

○教育長（道免 隆君）各学校では校長が1年間の学校経営方針等を含めた教育指導計画書、このようなものを年度当初につくり上げますが、この中に安全確保、危機管理マニュアルというものもございます。登下校、交通安全等にかかわる部分でいえば、通学路の安全点検、危険箇所の把握、安全教室の実施、学団集会、あるいは登校班を編成しておりますので、集団登校等の指導。中学校においては自転車通学ですので、自転車にかかわる指導ということがしっかり明記されておまして、それに基づいてそれぞれ実施計画を作成して、実施をしているという状況です。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君）上毛町全体的に見ると、先ほどの県河川の話がありましたが、河川から雑木が出てきて道路を狭めてるとかいうことがあります。さっき建設課長が、町内でできるものは町内で処理してるというお答えでした。見ると、佐井川の付近とか、それから反対側もそうですし、飛び出してる場所がありますね。そういうところを県に言っていただいとるんでしょうが、何とか早急に安全対策できないものか、その辺はいかがでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君） 建設課長。

○建設課長（尾崎幸光君）県に再三要望はしておるんですが、県のほうといたしましても、要するに優先順位等々がございます、なかなか手をつけていただけないような状況でございます。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君）ぜひ続けて要望していただきたいと思います。

次の防災対策に進みます。

昨年も7月7日の豪雨で数多くの方が避難をされました。そういう中で、避難所の状況について、どのような状況だったかお聞かせください。

○議長（宮崎昌宗君）総務課長。

○総務課長（岡崎 浩君）昨年の7月6日から7日にかけての大雨につきましては避難勧告を出しておる部分でございまして、最終的には17時10分に全員が避難勧告という形になりました。解除されたのが翌日の8時30分でございます。この間、げんきの杜と大平支所、両方を避難所と開設いたしておりますが、最大の避難者数で71世帯136名ということになっておる状況でございます。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）両方で136名。たしか大平支所は100名ぐらいおったんじゃないかなというふうに。まあいいです、たしかそのぐらいおったんじゃないかなという気がしてますが、そういう中で、備蓄食料というか、そういうものが、1日であればそうでもないのかもしれませんが、今後はどういう形になるか、これは予測つかない状況の中で備蓄食料を管理されていると思いますが、この前、熊本地震で北欧のフィンランドから液体ミルクというのが持ち込まれて、それが非常に功を奏したというようなことがあります。今現在、液体ミルクは保管してないと思いますが、水がなくてもそのまま飲めるというような利点もあって、非常にいいと言われております。そういうものを管理するお考えはございますか。

○議長（宮崎昌宗君）総務課長。

○総務課長（岡崎 浩君）現在、ミルクにつきましては粉ミルクを400食という形で備蓄しております。粉ミルクにつきましては、基本、消費期限がないという形の対応になっております。議員の御質問でございます液体ミルクでございますが、本年3月より国内メーカーが販売を始めており、複数の自治体で災害備蓄用に取り組んでおるところでございますが、備蓄方法としてはパックのほうが半年、スチール缶はこの4月から販売されたので、その部分でも1年ということでございますので、平常時での活用を行いながらローリングストックという方式をとっておるようでございます。

ただ、保育所などで液体ミルクの活用状況を確認いたしましたところ、現時点ではまだニーズが厳しいという部分がございますので、今後は保育所、また、乳児健診等を行っております子ども未来課の町民健康係等と協議を進めながら、どういう方向で備蓄を進めていくのか。備蓄をしても1年で廃棄するので、うまく活用していかないと厳しいという部分で、その辺は協議の上かなと。まだその辺が進んでないと御認識をいただければと。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） おっしゃるとおりだと思います。要は、消費期限内にいかに活用するか。先ほども言いました保育所とか乳児健診等々で広く認知度を上げて、そういうものがあるのであれば、確かに長く持つものではないので、町としても非常に持ち出しが出てくるとは思います。有事の際には必ず必要だという時が来るとは思いますので、その辺は十分検討しながら、備蓄に入れていただくための検討を進めてください。よろしくお願いたします。

今、消費期限があるものは、どんなものがあるんですか。その活用ちゅうのはどういう活用されていますか。

○議長（宮崎昌宗君） 総務課長。

○総務課長（岡崎 浩君） 昨年6月に荒牧議員からも同様の御質問をいただいておりますので、内容的には同じになるんですが、まず、平成28年の熊本地震に対しまして、本町が備蓄しております非常用食料を御船町にお送りをしたところでございます。缶入りのパン、御飯、クッキー等の賞味期限が近いものから可能な範囲で提供して有効活用を行ったところでございますが、その後、消費期限が到来する非常用食料につきましては、当然のことでございますが、災害が発生しないに越したことはございませんので、被災地の支援、また、平常であれば地域住民の方々に防災訓練等を行っていただいて、その中で御活用いただくのが望ましいのかなと考えております。特に、非常用食料というのはどんなものかというのを承知しておいていただくためには、そういう活用がよろしいのかなと考えておるところです。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） どういうものかと1回食べてみるちゅうのは必要だと思いますので、ぜひそういう活用をしてください。

それから、3月の広報に災害用Wi-Fiということで、Wi-Fiが全部で9カ所だったかな、設置されましたね。3月の広報誌とホームページに載っている情報を見せいただきましたが、私は室内に来たらつながるものだというふうに思っておりました、実は。そう思ってる方がたくさんいらっしゃいます。そうではなくて、外で十分活用できるというようなことを改めて認識いたしました。その辺のPRちゅうのはかなり不足をしていると思いますが、その辺の認知はどうでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君） 総務課長。

○総務課長（岡崎 浩君）議員がおっしゃられましたとおり、総務省が所管をいたしました補助事業を活用いたしまして、本年2月より、町内9カ所において防災Wi-Fiの運用を開始いたしております。

お知らせにつきましては、広報3月号でお知らせをいたしておると、設置済みの施設についてはステッカー等を貼付いたしまして使用方法を掲示いたしておるところでございます。広報手段が薄いのではないかとと言われると、これは広報活動というのは繰り返しが必要になってきますので、その辺は再度広報なりを行っていくという考えで対応したいと思っております。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）外の壁に2カ所あるちゅうのは、本当初めて認識をしたということで大変申しわけないなと思っておりますが、車に乗りながら情報が来ていると。そういう面では災害時には集まってきてということは十分わかるわけですが、そのことをもっともっとPRしていただきたいなと思うと同時に、避難箇所としてここ2階に来たときに、じゃあ2階でも活用できるのがいいのではないかなと思うわけですが、2階では今ちょっと不便さを感じておりますが、その辺を今後ぜひ活用できるようにしていただきたいと思っておりますが、いかがですか。

○議長（宮崎昌宗君）総務課長。

○総務課長（岡崎 浩君）今回の部分は、あくまでも国の防災にかかわる補助という部分でまず御理解を。主にロビー、駐車場を使用可能エリアというふうなものが補助要項にございますので、その辺をアクセスポイントといたしておるので、避難所全体をカバーするまでは至っていないと御理解をいただきたいと思っております。平常時の活用も若干補助要件となっておりますので、有効活用が図れるような周知も図ってまいりますが、議員御指摘のたいへいの里の2階エリアまでの拡大というのは、本年まだ補助事業の完了直後でございますので、若干お時間をいただかないと、直ちにエリアを広げるのは困難かなと考えておるところでございます。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）それは去年、2階に避難をされたということを知っていて、そうであれば、今後の中では対応が望ましいのではないかなと思うので、その辺は御理解の上、御検討お願いしたいと思います。

それから、ふるさと納税。昨日、宮本議員からいろいろなことを聞きまして、二、

三お聞きをいたしたいというふうに思います。

昨年度の答弁で、返礼品を業者に発注しているのに、なかなか3月いっぱいの変更が難しいというのが縮まって、1月からとなったわけですが、今、上毛町は6月から9月までという限定をされた状況になっておりますね。それは、いつごろそういうような対応をしたらワッパから外れたんでしょうか。その辺の経緯がわからないんですけど、その辺はどうでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君） 税務課長。

○税務課長（堀田京介君） 今回の4カ月の指定ですけど、これについても総務省告示のほうで、今回の最初の指定については11月1日から本申請日までの寄附金の募集状況を勘案してという形になっておりますので、うちのほうが12月末見直しをして、その間にある一定の見直し前の募集で寄附を集めておりますので、43団体の中選ばれたような形になってます。

それで、かなり多く集めた4市町村については除外という形になっております。11月1日以降についても基準の中に入ってるような形になっております。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） 四つの市町は論外と言っても彼らは彼らで言い分があるということで、今そのように言っておるようですが、今後、10月以降、もう7月に申請を出してということのようでございますが、10月以降もうまくつながる見込みでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君） 税務課長。

○税務課長（堀田京介君） 今現在、総務省の基準に合わせて返礼品の募集を行うという形で、昨日の一般質問でも申し上げましたとおり、さとふるについては、今、50%の制限に該当しないという形になるので、一旦今閉鎖をしておりますけど、そういう形で、基準内で6月以降募集を行っておりますので、10月以降もほぼまた1年間の指定を受けられるんじゃないかと思っています。

ちなみに今、さとふるについては募集を停止しておりますけど、ある程度調整がつきそうなので、近いうち、再開させていただきたいと思っております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） さとふるは5%の改善というようなことを言われておりましたが、

ホームページにも時間が多少前後するかもしれないと書いてるのはそういう内容だと理解してよろしいですね。

そういう中で、町長が返礼品の質を上げたいというようなことを前回の答弁でも言われておりました。返礼品の質を上げるということについて、町長からの指示はどのように受けておりますか。町長が答えてくれても結構ですけど。

○議長（宮崎昌宗君） 町長。

○町長（坪根秀介君） そもそも、ふるさと納税に力を入れた昨年、一昨年というのは、道の駅、大平楽の建て直しもあって、この2年間でしっかり稼いでいくぞということに私が指示を出しました。初年度10億の予算、翌年度が35億の予算、それをクリアしていったので、福岡県で1位になったということでございます。

いろいろなところを調査すると、やはり質より量だったんですね、その当時は。ですから、上位10ぐらいを全部勉強して、我々も質より量で行けという指示を出しました。エースクラスが幾つかできましたので、それにつられてうちのサイトに入ってくると、うちの米であるとかイチゴであるとか、うちの農産物も一緒に上がったということにいったわけですけども、返礼率を3割、地元産ということに抑えられてしまったら、もう太刀打ちできないですね。

ですから、同じ条件で勝つためには、今度は質より量じゃなくて量より質で、いいものを出していこうと、セレクトしていこうということで指示を出してるところです。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） そういう意味では、牛肉も豚肉も非常にいいところにいっておいりました。今年度、また養豚業者が上毛町に来ますが、そういう状況であれば、また豚肉も選定の価値に入ると理解してよろしいのでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君） 税務課長。

○税務課長（堀田京介君） 豚肉については、こちらのほうで育てるという形になるので、一応うちのほうの地場産の肉という形で返礼品化することが可能だと考えております。

○議長（宮崎昌宗君） 三田議員。

○8番（三田敏和君） 特産品をふやすちゅうのはなかなか難しい中で、実は、旧大平村の時代から柿ようかんが特産品としてあったわけですが、高齢化と事業継承する人がいないというようなこともあったんだろうと思うんですが、その加工場が閉鎖されて、今、取り壊してしまっているという状況があります。その辺の経緯を少し。そし

て、次に誰かが引き継ぐちゅうことになっているのかどうか。結構長い期間とお金も突っ込んだと思います。その辺はどうでしょうか。

○議長（宮崎昌宗君）産業振興課長。

○産業振興課長（円入忠義君）ようかん組合については、記憶の範囲内でなんですけど、昨年12月には商品の販売を取りやめております。解散という形での総会の決議を経まして、最近、加工場を取り壊しをいたしております。これについて、継承というのはいろいろなところに交渉といいますか、話を持っていったんですが、組合のほうから、なかなか継承するのは難しいというお話がございまして、一旦はそこで打ち切りという形をとらせていただいて、次につなげるところを今探している状態でございます。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）特産品ということで振ってしまって大変申しわけありませんでしたけど、特産品を新たにつくるちゅうのは非常に難しいわけで、そういう状況を今後の中でしっかり形成していただきたいと思います。

それと、ことし1月から見直して、10月、11月、12月、1月から5月まで、金額的にはどのように件数と推移してるか、そこだけ教えてください。

○議長（宮崎昌宗君）税務課長。

○税務課長（堀田京介君）寄附額の推移ですけど、5月分の最新の数字が出ましたので、5月分まで含めて最新の数字で報告させていただきます。

1月分ですけど、533万5,000円。2月分が376万円。3月分が523万円。4月分が367万円。5月分が297万6,000円。合計で2,097万1,000円と、5月末現在での数値となっております。

以上です。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）ちなみに、昨年の10、11、12月を教えてください。

○議長（宮崎昌宗君）税務課長。

○税務課長（堀田京介君）昨年の10月が4億236万円。11月が8億6,660万4,500円。12月が17億3,603万2,231円となります。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員。

○8番（三田敏和君）10分の1ちゅうのはかなりの金額ですね。そういう中でしっかり新しいものを見つけながら、ふるさと納税の意義をしっかりと示していただいて、我々も何とかお手伝いできるものはお手伝いしながら、政策と一緒にやっていきたいなと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

以上で終わります。

○議長（宮崎昌宗君）三田議員の質問が終わりました。

以上で一般質問は全て終了しました。

本日はこれで散会します。

散会 午前11時21分